

令和5年度の全国的な豪雨災害について

1 令和5年6月の梅雨前線及び台風第2号による大雨被害

6月1日から3日午前中にかけて梅雨前線が本州付近に停滞。前線に向かって台風第2号周辺の非常に暖かく湿った空気が流れ込んだため、2日には前線の活動が活発になり、西日本から東日本の太平洋側を中心に大雨となった。

- ・6月1日 台風周辺からの暖かく湿った空気の流れ込みで、西日本を中心に雨となり、九州北部地方や四国地方では一時激しく降った所があった。
- ・6月2日～3日 前線が本州付近に停滞し、台風からの非常に暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発化。西日本から東日本の太平洋側を中心に大雨となり、高知県、和歌山県、奈良県、三重県、愛知県、静岡県では線状降水帯が発生した。1時間に80ミリ以上の猛烈な雨が降り、1時間降水量が観測史上1位の値を更新した地点があった。また、降り始めから3日までの雨量は東海地方で500ミリを超えたほか、四国地方、近畿地方、関東地方でも400ミリを超え、平年の6月の月降水量の2倍を超えた地点があった。

(全国の被害状況)

被害状況

- ・人的被害 死者5名、行方不明者2名
- ・住家被害 全壊13棟、半壊6棟、一部破損36棟
床上浸水2,149棟、床下浸水5,841棟

土砂災害発生状況

- ・170件（福島県2、千葉県4、神奈川県23、山梨県1、長野県4、岐阜県1、静岡県35、愛知県18、三重県4、滋賀県1、大阪府4、兵庫県3、奈良県6、和歌山県57、徳島県2、高知県3、宮崎県2）

※全国の被害状況は6月8日時点の内閣府防災担当集計によるもの。

他都市の被害写真は国土交通省の「令和5年6月 台風2号に伴う大雨による近畿地方の河川の概要」を引用
気象情報は気象庁の「災害をもたらした気象事例」を引用

河川氾濫等の発生状況

- ・26水系39河川



(京都市域に大きな被害なし)

令和5年度の全国的な豪雨災害について

2 令和5年6月から7月における梅雨前線による大雨被害

6月28日以降、梅雨前線が日本付近に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で前線の活動が活発となり、各地で大雨となった。

- ・ 6月28日～7月6日 上空の寒気の影響もあり、沖縄地方を除いて全国的に大雨となった。1日から3日は山口県や熊本県、奄美地方（鹿児島県）で線状降水帯が発生した。
- ・ 7月7日～10日 九州北部地方や中国地方を中心に大雨となった。8日は島根県で、10日は福岡県、佐賀県、大分県で線状降水帯が発生した。この大雨において、10日朝に福岡県と大分県で大雨特別警報が発表された。
- ・ 7月11日～13日 北海道付近を低気圧が通過したこともあり、西日本から北日本にかけて広い範囲で大雨となった。12日は石川県及び富山県で線状降水帯が発生した。
- ・ 7月14日～16日 東北部を中心に大雨となった。秋田県では14日から16日の総降水量が多い所で400ミリを超えるなど同県を中心に記録的な大雨となった。

（全国の被害状況）

被害状況

- ・ 人的被害 死者14名、行方不明者1名
- ・ 住家被害 全壊18棟、半壊51棟、一部破損175棟
床上浸水1,592棟、床下浸水2,557棟

土砂災害発生状況

- ・ 229件（秋田県4、神奈川県1、新潟県6、富山県2、石川県18、福井県1、長野県3、岐阜県3、兵庫県3、鳥取県4、島根県51、岡山県1、広島県8、山口県28、愛媛県6、福岡県12、佐賀県20、長崎県9、熊本県14、大分県10、宮崎県3、鹿児島県22）

※全国の被害状況は7月18日時点、岩手県と秋田県については7月25日時点の内閣府防災担当集計によるもの。
他都市の被害写真は国土交通省の「6月29日からの大雨について」の参考資料を引用
気象情報は気象庁の「災害をもたらした気象事例」を引用

河川氾濫等の発生状況

- ・ 44水系121河川

ちくごがわ こいしわらがわ たちあらいまち
筑後川水系小石原川（福岡県大刀洗町）



浸水状況（概ね解消）

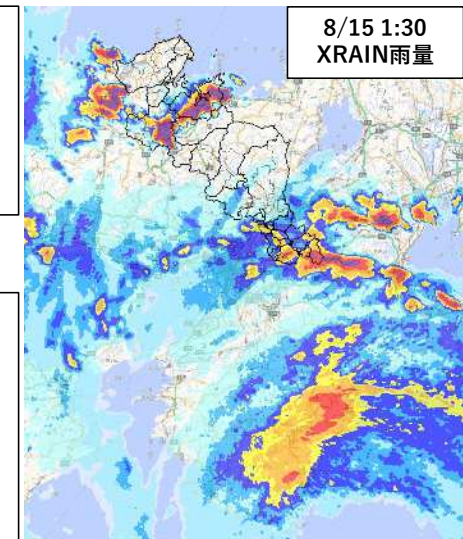
（京都市域に大きな被害なし）

令和5年度の全国的な豪雨災害について

3 令和5年度の台風第7号の被害について

西日本の地域を中心に大雨となり、鳥取県、岡山県、香川県及び岩手県では平年を超える大雨となった。

- ・ 8月15日 台風第7号が和歌山県に上陸し、西日本を中心に大雨となった。
鳥取県、岡山県、香川県及び岩手県では平年を超える大雨となった。
16時40分に、鳥取市に大雨特別警報を発表された。
岡山県と鳥取県で、線状降水帯が発生した。
14日～15日にかけては三重県などで、30メートルを超える最大瞬間風速を観測した所があった。



※京都府土砂災害警戒情報より引用

(全国の被害状況)

被害状況

- ・ 人的被害 死者、行方不明者なし
- ・ 住家被害 一部破損 44棟
床上浸水 39棟
床下浸水 98棟

(京都府下の被害状況)

- ・ 8月14日22時頃～15日1時頃 綾部市の地域で90ミリ、舞鶴市、福知山市の地域で110ミリの大雨が観測され、京都府記録の短時間大雨情報が6回発表された。
- ・ 8月13日～17日 最大3時間降水量は福知山市坂浦で110.5ミリ、舞鶴で84.0ミリの観測し、いずれも8月の1位を更新した。また最大6時間降水量は、綾市睦寄町で190.0ミリの観測し年間の1位を更新した。
最大瞬間風速は、京都市中京区で北東の風25.3メートル（15日08時52分）京田辺で東の風23.8メートル（15日10時23分）を観測しそれぞれ8月の1位を更新した。

浸水被害等の発生状況

- ・ 13水系21 河川

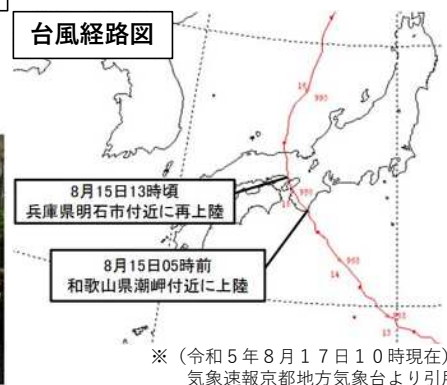
土砂災害発生状況

- ・ 47件（岩手県1、山梨県1、京都府40、兵庫県4、鳥取県1）

- ・ 8月14日 福知山市、舞鶴市、綾部市に災害救助法が適用（災害救助法施行令第1条第1項第4号）

※全国の被害状況は8月17日時点の内閣府防災担当集計によるもの。
他都市の被害写真は国土交通省の「台風第7号による被害状況等について」の参考資料を引用
気象情報については、8月17日10時時点の京都気象台の気象速報及び国土交通省「台風7号による被害状況等について」の参考資料を引用
XRAIN雨量については京都府土砂災害警戒情報引用

土砂災害 まいづるし (京都府舞鶴市)



※（令和5年8月17日10時現在）
気象速報京都府気象台より引用